



ボリューム容量レポートのカスタマイズ

Active IQ Unified Manager 9.13

NetApp
December 18, 2023

目次

ボリューム容量レポートのカスタマイズ.....	1
Snapshot の自動削除がオフで容量がフルに近づいているボリュームを特定するレポートの作成	1
シンプロビジョニングが無効なボリュームが使用しているスペースを確認するレポートの作成	2
クラウド階層へのデータの移動が必要な FabricPool アグリゲート上のボリュームを特定するレポートの作成.....	2

ボリューム容量レポートのカスタマイズ

以下に記載するサンプルのカスタムレポートを使用して、ボリュームの容量とパフォーマンスに関連する潜在的な問題を特定して対処することができます。

Snapshot の自動削除がオフで容量がフルに近づいているボリュームを特定するレポートの作成

Snapshot の自動削除機能が無効になっていて容量がフルに近づいているボリュームをリストするレポートを作成できます。このレポートは、Snapshot の自動削除を設定する必要があるボリュームを特定するのに役立ちます。

- 必要なもの *
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、必要な列を正しい順序で表示するカスタムビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、* Storage * > * Volumes * をクリックします。
2. 表示メニューで、* 容量 * > * すべてのボリューム * を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、[* 表示 / 非表示 *]を選択します。
4. 「スナップショットの自動削除」列と「フル」列を「使用可能なデータ容量」列の近くにドラッグアンドドロップします。
5. フィルタアイコンをクリックして次の2つのフィルタを追加し、* フィルタの適用 * をクリックします。
 - フルまでの日数が 30 日未満
 - Snapshot の自動削除が無効になりました
6. 残り日数が最も少ないボリュームがリストの先頭に表示されるように、「フルまでの日数」列の上部をクリックします。
7. ビューに表示されている内容を反映した名前（たとえば「Vols near capacity」）でビューを保存します。
8. インベントリページの * スケジュール済みレポート * ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドに情報を入力して、チェックマーク (✓) をクリックします。

レポートはテストとしてすぐに送信されます。その後、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者に E メールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリュームで Snapshot の自動削除を有効にしたり、使用可能なスペースを増やす方法を特定したりすることができます。

シンプロビジョニングが無効なボリュームが使用しているスペースを確認するレポートの作成

シンプロビジョニングされていないボリュームは、ボリューム作成時に定義されたスペースの全容量をディスク上で占有します。シンプロビジョニングが無効になっているボリュームを特定することで、特定のボリュームでシンプロビジョニングを有効にするかどうかを判断できます。

- 必要なもの *
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、必要な列を正しい順序で表示するカスタムビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、 * Storage * > * Volumes * をクリックします。
2. 表示メニューで、 * 容量 * > * すべてのボリューム * を選択します。
3. レポートに不要な列を削除するには、 [* 表示 / 非表示 *] を選択します。
4. [使用済みデータ %] 列と [シンプロビジョニング済み] 列を [使用可能なデータ容量] 列の近くにドラッグ・アンド・ドロップします
5. フィルタアイコンをクリックして次のフィルタを追加し、「シンプロビジョニング済み」「*なし」の * フィルタの適用」をクリックします。
6. 「Used Data %」列の上部をクリックして、割合が最も高いボリュームがリストの先頭に表示されるように結果をソートします。
7. ビューに表示されている内容を反映する名前を付けてビューを保存します（例：「Vols no thin provisioning」）。
8. インベントリページの * スケジュール済みレポート * ボタンをクリックします。
9. [* スケジュールの追加 *] をクリックして、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるように、[レポートスケジュール *] ページに新しい行を追加します。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドに情報を入力して、チェックマーク () をクリックします (✓) をクリックします。

レポートはテストとしてすぐに送信されます。その後、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者に E メールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、特定のボリュームでシンプロビジョニングを有効にすることができます。

クラウド階層へのデータの移動が必要な FabricPool アグリゲート上のボリュームを特定するレポートの作成

現在 FabricPool アグリゲートにあるボリューム、クラウド階層に関する推奨事項があり、さらに大量のコールドデータがあるボリュームのリストを記載したレポートを作成できます。このレポートは、特定のボリュームの階層化ポリシーを「auto」または「

all」に変更して、より多くのコールド（非アクティブ）データをクラウド階層にオフロードする必要があるかどうかを判断するのに役立ちます。

- 必要なもの *
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- FabricPool アグリゲートを設定しておく必要があります。また、それらのアグリゲート上にボリュームが必要です。

次の手順に従って、必要な列を正しい順序で表示するカスタムビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、* Storage * > * Volumes * をクリックします。
2. [表示]メニューで、[* パフォーマンス > すべてのボリューム *]を選択します。
3. コラムセレクトで、ビューに「ディスクタイプ」列が表示されていることを確認します。


他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。


4. 「クラウドのおすすめ」列の近くにある「ディスクの種類」列をドラッグアンドドロップします。
5. フィルタアイコンをクリックして次の3つのフィルタを追加し、* フィルタの適用 * をクリックします。
 - ディスクタイプにFabricPool が含まれています
 - クラウドに関する推奨事項に階層が含まれて
 - コールドデータが 10GB を超えています

Disk Types	contains	fabricpool	
Cloud Recommendation	contains	tier	
Cold Data	greater than	10	GB

6. コールドデータ列の上部をクリックして、コールドデータが最も多いボリュームをビューの上部に表示します。
7. ビューに表示されている内容を反映する名前を付けてビューを保存しますたとえば 'Vols change tiering policy' です

Latency, IOPS, MBps are based on hourly samples averaged over the previous 72 hours.

View Vols change tiering policy  3

Volume	Cold Data	Tiering Policy	Disk Types	Cloud Recommendation	Free Capacity	Total Capacity
nfs_vol4	38 GB 	Snapshot Only	SSD (FabricPool)	Tier	2.62 TB	3 TB
kjagnfsdst	28 GB	Snapshot Only	SSD (FabricPool)	Tier	121 GB	150 GB

change tiering policy (階層化ポリシーの変更) ページが表示され、必要な列が正しい順序で表示されます。"]

8. インベントリページの * スケジュール済みレポート * ボタンをクリックします。
9. [レポートスケジュール] ページに新しい行を追加して、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにするには、[スケジュールの追加] をクリックします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、他のレポートフィールドに情報を入力して、チェックマーク (✓) をクリックします。

レポートはテストとしてすぐに送信されます。その後、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者に E メールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、System Manager または ONTAP CLI を使用して、特定のボリュームの階層化ポリシーを「auto」または「all」に変更し、より多くのコールドデータをクラウド階層にオフロードできます。

著作権に関する情報

Copyright © 2023 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。